

若者の自殺、LINEで防ぐ 鹿児島で始まる

稲野慎 2019年10月27日 17時01分



自殺防止のLINE相談を開設したパーソナルサービス支援機構の大倉一真代表＝鹿児島県鹿屋市西原2丁目
(画像の一部を加工しています)

増加傾向にある児童・生徒など若者の自殺を減らそうと、鹿児島県鹿屋市でフリースクールを運営する一般社団法人「パーソナルサービス支援機構」が、自殺を考える若者らを対象にした無料通話アプリLINE(ライン)を使った相談事業を始めた。

警察庁などによると、2018年の国内の自殺者は約2万800人で、ピークだった03年の約3万4千人から約4割減少したが、小中高校生の自殺者数は増加傾向にあり、17年は約360人と10年で約1.3倍になった。

同法人は17年に鹿屋市で市民らが集まって自殺予防の活動を始め、18年10月に社団法人になった。自殺をはかる若者の中には、事前に臨床心理士や公的な相談機関に相談した経験がない者も少なくないとみられることから、若者が日ごろ使い慣れているLINEを活用する相談事業の開設に踏み切った。

同法人によると、自殺を考える若者は、昼夜逆転の生活を送ったり、元気に学校に通うように見えても夜中に突然不安に駆られ、リストカットなどの自傷行為に及んだりする例があるという。

そこで、若者が心理的に追い詰められた時、いつでもLINEのチャット機能で相談ができるように年中無休、24時間態勢で専門スタッフ3人が相談に応じる。全国的にも珍しい試みで、県の地域自殺対策強化事業の受託事業として採択された。

9月中旬の開設以降、約3週間で県内外のおもに10～20代から「死にたい」などと訴える30件以上の相談が寄せられたという。

同法人の大倉一真代表は「まずはどんな悩みでも相談することが大事。気軽に連絡してほしい」と呼びかけている。

LINEの相談名は「おおすみいのちつなぐほっとLINE」。LINEの検索画面に「oosumi-yorisoi」と入力するとアクセスできる。(稲野慎)